

日本スポーツ社会学会会報

VOL. 78



= 目次 =

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 第31回大会実行委員会 実施要項 | 5. 各委員会からのお知らせ |
| 2. 第31回大会における研究委員会の企画 | 5-1. 編集委員会 |
| 2-1. 研究委員会企画シンポジウム | 5-2. 研究委員会 |
| 2-2. 学生企画シンポジウム | 5-3. 国際交流委員会 |
| 3. 第31回大会における | 5-4. 電子ジャーナル委員会 |
| 国際交流委員会企画シンポジウム | 5-5. 広報委員会 |
| 4. 第31回大会における | 5-6. 学生研究奨励賞選考委員会 |
| 実行委員会企画シンポジウム | 5-7. 学会賞選考委員会 |
| | 6. 事務局より |
| | 2021年度理事会議事録(第4回) |
| | 7. 編集後記 |

日本スポーツ社会学会
Japan Society of Sport Sociology
広報委員会 2022年1月

1. 第31回大会実行委員会 実施要項

日本スポーツ社会学会第31回大会 大会案内（第2報）
（会場：東海大学 湘南キャンパス）

大会参加を予定されている皆様へ

引き続き、対面での大会開催を基調として準備を進めています。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、昨年度同様、オンライン開催へと切り替えることもあります。とはいえ、判断を先送りし続けることも皆様にご不便をおかけすることになるため、実行委員会としては開催形式の最終判断を【2022年2月初旬】と定めさせていただきます。しかしながら、急激な状況の変化に応じて柔軟な対応が求められる可能性がある点は、予め御了解を賜りたく存じます。

詳細につきましては、本案内の「9. オンライン開催への切り替えについて」もご確認願います。皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

1-1. 開催期間

2022年3月19日（土）・20日（日）

1-2. 会場

東海大学 湘南キャンパス 2号館・14号館

https://www.u-tokai.ac.jp/uploads/2021/02/shonan_campus.pdf

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1

○アクセス方法

小田急線 「東海大学前」 駅

①徒歩約15分

②『秦野駅行き』『下大槻団地行き』バス（約5分）で「東海大学北門」下車すぐ

○JR東海道線「平塚」駅

①『東海大学行き』または『秦野駅行き』バス（約30分）で「東海大学正門前」下車徒歩約5分

○宿泊関係・・・宿泊の斡旋はしておりません。

1-3. 主催

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>

1-4. 日程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
19日 (土)		受付 10:00開始	理事会 10:30-			一般発表1 13:00-15:00		実行委員会企画 15:20-16:50		総会 17:00-18:00
			学生フォーラム 10:30-11:40							
20日 (日)		一般発表2 9:30-12:30				研究委員会企画 13:30-16:00		クロージング		

ただし、日程は発表演題数、企画シンポジウム等の都合により変更になる場合があります。

※新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、懇親会は実施いたしません。

1-5. 大会までの主なスケジュール

事 項	締 切 日
一般研究発表申込	2021年12月24日（金）
大会参加早期申込（早割）	2022年1月25日（火）
一般研究発表抄録提出締切	2022年1月31日（月）

1-6. 大会参加申し込み

日本スポーツ社会学会第31回大会ホームページ (<https://spsociology.org/>) の「参加申込」ページから、その指示に従って必要事項を記入の上、送信してください。大会参加費の早期割引を受けるためには、ホームページ上の「申し込み手続き」及び「入金」がともに、2022年1月25日（火）までに完了していることが必要です。

【参加申込先】 第31回大会ホームページ (<https://spsociology.org/>)

【大会参加費】

参加申込みと同時に、大会参加費を大会実行委員会口座までご送金ください。専用の振込用紙は郵送いたしませんのでご了承ください。対面開催、オンライン開催、いずれの形式においても大会参加費は同額です。なお、年会費の納入状況、送金先等に関する情報は学会事務局 (jsssjimukyoku@gmail.com) にご照会下さい。

種 別	早期割引あり	通常（早期割引なし）
正会員	3,000 円	4,000 円
学生会員		1,000 円
非会員・一般		4,000 円
非会員・学生		1,000 円

【大会参加費振込先】

振替口座 00970-9-334985（他行からの振込の場合は「ゆうちょ銀行、〇九九店、当座、0334985」）

・口座名称：「日本スポーツ社会学会大会実行委員会」

口座名称のカタカナ表記について、文字数の制限で「ニホンスポーツシャカイガッカイタイカイジッコウイインカ」になっています。

1-7. 一般研究発表申し込み

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、たとえ大会直前であってもオンライン開催への切り替えがあり得ます。一般発表を申し込む場合には、オンライン発表（オンデマンド形式を予定）への対応も考慮いただき、お申込み願います。オンライン開催への切り替えのタイミング、発表形式、切り替え後のスケジュール等の詳細については「9. オンライン開催への切り替えについて」を参照願います。

(1) 発表申込締切日 2021年12月24日(金)

大会ホームページ (<https://spsociology.org/>) の「申し込み(参加・発表)」ページから、その指示に従って必要事項を記入し、送信していただくことで、発表申込みができます。

発表内容については、上記ホームページの該当箇所に、1,200~1,600字程度(英文の場合は300ワード程度)の概要を記入し、送信してください。

(2) 一般研究発表の資格に関する注意事項

「日本スポーツ社会学会大会開催に関する規定」第5条による、一般研究の発表者の資格は以下の通りです。

- 1) 発表者および共同研究者は、日本スポーツ社会学会会員であること。
- 2) 発表者および共同研究者は、その年の年会費を納めていること。
- 3) 発表者は大会参加費を納めていること。
- 4) 大会に参加しない共同研究者は、大会参加費を納める必要がないこと。

※ 発表者は、「年会費」「大会参加費」の納入についてご確認ください。未納の場合は発表できません。納入の確認が必要な場合、年会費については「会員情報管理システム SOLTI」でご確認いただき、大会参加費については学会大会実行委員会へお問い合わせください。

・年会費…会員情報管理システム<SOLTI> <https://service.gakkai.ne.jp/solti-asp-member/mypage/JSSS>

・大会参加費…大会実行委員会メールアドレス jsss31th@gmail.com

※学会事務局メールアドレス jsssjimukyoku@gmail.com

(3) 発表抄録原稿の提出締切日 2022年1月31日(月)

発表申込みをしていただいたのち、研究委員会にて審査がおこなわれます。**申込時、概要の字数・形式は必ず守ってください。**審査を経て、学会発表が許可されたものについては、発表抄録の原稿を提出していただきます。

発表抄録原稿用テンプレートは、大会HPからダウンロードできます。書式を利用するには、Microsoft Office Word 2013(あるいはそれ以上の年式)が必要です。テンプレートの書式に従って作成いただいた原稿は、2022年1月31日(月)までに、以下のメールアドレス宛に添付ファイル送信してください。

発表抄録原稿受付メールアドレス jsss31th@gmail.com

※ 件名には「日本スポーツ社会学会発表抄録」と記載してください。

(4) 一般研究発表に関する注意事項

一般研究発表の時間は、発表20分、質疑応答10分です。発表の際に必要な機器がある場合(PCおよびプロジェクター以外)は、発表申込みの際に、当該箇所にその旨を記載して、申し出てください。パワーポイントによる発表を希望する方は、USBメモリにデータを持参してください。当日、発表資料を配付する場合は、各自で70部以上を持参してください。

1-8. 昼食について

現在、学内の食堂施設の稼働状況を大学に確認中です。詳細が判り次第、HP等でお知らせ致します。

1-9. 開催形式の変更の可能性とスケジュールについて

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、対面開催からオンライン開催へ切り替える判断をします。また、その可能性が見込まれる場合、一般発表はオンデマンド形式へと変更になるため、発表者の皆様にはその対応をお願いすることになります。具体的にはオンデマンド形式の発表資料の提出をお願いさせていただく予定です。以下、主なスケジュールです。

一般研究発表 抄録提出締切	2022年1月31日(月)
開催形式の最終判断	2022年2月初旬
<u>以下、オンライン開催に切り替わった場合のスケジュール</u>	
オンデマンド発表資料の提出依頼	2022年2月中旬
上記発表資料の提出締切	2022年3月5日(土)
一般発表の視聴期間	2022年3月19日(土)～25日(金)
質疑への回答閲覧期間	2022年3月30日(水)～4月5日(火)

〈オンライン開催時の一般研究発表に関する注意事項〉

一般研究発表の時間は20分です。発表方法はオンデマンド方式で以下の①②のいずれかとします。

- ①音声付きの動画(レジュメなどの資料の配布は選択いただけます)
- ②レジュメ(PDF)などの配布資料に音声をつける(音声と別々に提出可)

なお、音声付き動画の作成方法等につきましては、発表許可決定後にマニュアルを配付いたしますが、資料作成でお困りの方は、大会事務局にご相談ください。

1-10. 学会大会実行委員会について

- 実行委員/ 高尾 将幸(東海大学体育学部)
- 実行委員/ 秋吉 遼子(東海大学体育学部)
- 実行委員/ 大津 克哉(東海大学体育学部)
- 実行委員/ 吉原 さちえ(東海大学体育学部)
- 実行委員/ 小澤 考人(東海大学観光学部)
- 実行委員/ 植田 俊(東海大学国際文化学部)

【大会に関する問い合わせ】

東海大学 高尾 将幸
 〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1

東海大学体育学部
TEL： 0463-58-1211（代表）
Email： jsss31th@gmail.com

（なるべく電話ではなく、メールでの問い合わせをお願いします。その際には件名に【スポーツ社会学会第31回大会】とお入れください）

以上

2. 第31回大会における研究委員会の企画

2-1. 研究委員会企画シンポジウム

日時：2022年3月20日（日）13:30～16:00
会場：2号館・2N-101教室

「オリンピック・パラリンピックをめぐる「理念」と「現実」の間で」

東京2020オリンピック・パラリンピック（以下、「東京2020大会」）は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、近代オリンピック史上初となる1年の延期を経て開催された。大会後に実施された各種世論調査では東京2020大会を開催したことに対して肯定的に評価する人が多数派を占めたものの、大会の延期は結果的にオリンピック・パラリンピックのあり方を問い直す機会となった。すなわち、メディアなどを通じて国際オリンピック委員会（IOC）や東京2020大会組織委員会の体質、放映権ビジネスに代表される商業（主義）化された大会運営、オリンピックと政治との関係性などに対する批判が広く展開され、一部の専門家だけでなく多くの人々を巻き込む形でオリンピック・パラリンピックをめぐる諸問題が議論されることとなった。

こうして多くの問題を抱え、批判にさらされながらも、オリンピック・パラリンピックはなぜここまで生きながらえてきたのだろうか。それは、オリンピック・パラリンピックが様々な「理念」を掲げて開催される希有なスポーツイベントだからであろう。たとえばIOCはオリンピック憲章の中で、オリンピズムの目的を「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進」と定めるとともに、IOCの使命と役割のひとつとして「オリンピック・ムーブメントに影響を及ぼす、いかなる形態の差別にも反対し、行動する」ことを謳っている。同様に、国際パラリンピック委員会（IPC）は、「パラスポーツを通じたインクルーシブな社会創出」を組織の活動を支えるビジョンとして打ち出している。さらに、今回の東京2020大会が、大会の基本コンセプトのひとつとして、「多様性と調和」を掲げていたことは記憶に新しい。

一方で、組織委員長だった森喜朗氏による「女性蔑視」発言の例を待たず、オリンピック・パラリンピックの「現実」はそれらが追い求める「理念」とはほど遠いとの指摘もある。実際、東京2020大会でもSNS上でのアスリートに対する誹謗中傷がかつてないほど巻き起こり、トランスジェンダーのアスリートの出場に対して否定的な意見もみられた。また、義足のアスリート、マルクス・レーム選手が望んでいたオリンピック出場は叶わなかった。そもそも、オリンピック・パラリンピックから「排除」されている人々も存在するし、スポーツ界の「外」に目を向けても多様性を尊重する社会や共生社会が実現されてい

るとは到底言い難い。

とはいえ、東京 2020 大会をめぐることは、組織委員会主導のもと、「ダイバーシティ&インクルージョン」を実現することを目指した様々な活動（「アクション」）が展開されたのも事実である。また、パラリンピックは試合中継時間の長さもさることながら、関連番組や特集記事など各メディアにおいて数多く取り上げられた。加えて、日本全国では、「ホストタウン」や「共生社会ホストタウン」となった自治体において、異文化理解や「心のバリアフリー」を目指す取り組みが進められた。

こうした活動や報道、取り組みを支えた人々は、オリンピック・パラリンピックが追求する「理念」と突きつけられる「現実」の間で、どのように東京 2020 大会と向きあってきたのだろうか。本シンポジウムでは、そうした方々にその「経験」や「葛藤」を共有していただきながら、イデオロギー批判に留まらない、オリンピック・パラリンピックのスポーツ社会学的研究の方向性を模索してみたい。

なお、登壇者については調整中であり、決定次第、大会ホームページ等で周知する予定である。

2-2. 学生企画シンポジウム

日 時：2022 年 3 月 19 日（土） 10:30～11:40

会 場：14 号館・14-202 教室

「コロナ禍（新型コロナウイルス感染拡大下）における社会調査」

従来、社会学の手法は量的手法と質的手法に大別されてきた。本シンポジウムでは、それぞれの手法を用いて成果を上げている研究者を招き、コロナ禍において社会調査にどのような問題が生じたのかを振り返りつつ議論する。

今回のテーマは、質的手法を用いている世話人の中で、コロナ禍において「調査地に赴く困難をどう考えるのか」という問題意識が共有されたことから生じた。人との物理的接触が制限される状況において、修士論文や博士論文をいかに書くか、壁に突き当たっていた学生会員も多いのではないかと。

一方で、『スポーツ社会学研究』第 29 巻第 1 号の特集で「社会調査のトライアンギュレーション」が取り上げられたことなどからも、量・質双方を踏まえた議論をする必要があると考えられた。そこで、量的手法においてもコロナ禍の影響がどのように出ているのか（あるいは出ているのか）を把握したい。

また、上記学会誌の特集においては、秋吉（2021）のレビューで近年の研究手法の偏りが指摘されている。これを踏まえ、コロナ禍の社会調査を振り返ることを通して、今後のスポーツ社会学における手法及び方法論をどのように考える必要があるのか、若手研究者が議論する機会を提供したい。

付け加えておくと、便宜的に量・質という区分をしたが、文献調査やメディア分析がスポーツ社会学において成果を上げてきたこともまた事実だろう。登壇者・世話人も含めた参加者が、それぞれの採用する手法と他の手法の方法論的な違いや関係性への認識を深め、それらをどう接続していけるのかを発展的に議論する機会となれば幸いである。

司 会：学生フォーラム世話人
菅原大志（東北大学大学院）

小石川聖（早稲田大学大学院）
宮澤優士（筑波大学大学院）

話題提供者：

村田周祐（鳥取大学）
大勝志津穂（愛知東邦大学）

3. 第31回大会における国際交流委員会企画シンポジウム

今年度は開催しません。

4. 第31回大会における実行委員会企画シンポジウム

日時：2022年3月19日（土）15:20～16:50
会場：2号館・2N-101教室

「パラリンピックを学際的に紐解く」（公開企画）

2021年8月24日から9月5日まで、東京2020パラリンピック競技大会（以下、東京2020）が開催された。原則無観客であったものの、NHKは過去最長時間の放送を行い、民放各社についても生中継を実施し、関連番組を多く制作する等をしたことから、パラリンピアンたちのパフォーマンスに魅了された人も少なくないのではないかと。メダル獲得数が過去2番目に多いことも踏まえると、今後は競技力向上もさることながら、わが国でパラリンピックを含めた障がい者スポーツ全般に興味・関心を持つ人が増え、「みる」や「支える」といった形での普及も期待される。そしてそのことが共生社会の実現に何らかの形で繋がるためには、何が求められるのかという議論に真剣に取り組むフェーズに、私たちは差し掛かっているように思われる。

そこで、パラリンピック関係者（演者は調整中）に、東京2020から垣間見えたパラリンピックの現状と課題、ならびにその魅力を語ってもらう。また、田中彰吾先生には、現象学的身体論の立場から、パラリンピック並びに障がい者スポーツがひらく、学問的な論点を解説していただく。そして、障がいのある児童・生徒が日常的なスポーツ実践に楽しむために必要な要因の研究をされている指定討論者の内田匡輔先生には、実践と学術を交えた討論の深掘りをしてもらい、パラリンピックを学際的に紐解いていくことを目指す。加えて、大学による社会貢献／地域貢献という実践的観点からも、障がい者スポーツの課題と可能性について問題提起していただく予定である。

なお、本企画は公開企画とする予定である。スポーツ関係者のみならず、一般の方々にも公開することで、多様なまなざしを含めることができる。また、パラリンピックに関する議論を一過性で終わらせず、持続的な議論の発展に寄与する企画としたい。

司 会：秋吉遼子（東海大学）
発 表 者：田中彰吾（東海大学）
パラリンピック関係者（調整中）※
指定討論者：内田匡輔（東海大学）

※詳細が決まりましたら、学会大会 HP 等でご紹介いたします。

以上

5. 各委員会からのお知らせ

5-1. 編集委員会

2021 年には査読体制について変更した部分がありますので、みなさま、以下を必ずご確認ください。

< 査読期間を短縮しました！ >

2021 年秋から、査読をスピード感をもって進めることができるように査読期間を見直しました。修正点は以下 3 つです。

① 査読期間は 4 週間から 3 週間に短縮され、投稿者には投稿から 1 ヶ月弱で、査読者からのコメントが戻ります。

② 投稿者の論文修正にかけられる時間は、引き続き 8 週間以内です。しかし 8 週間は投稿者の権利なので、必ずしも 8 週間かける必要はありません。投稿者の努力で、もし短い期間で修正稿を出すことができれば、掲載可を得るまでの時間幅が随分と変わってきますので、この点、よくご理解いただき、計画等をお願いします。

③ 2 回の査読と修正が行われた後は、3 回目の査読、すなわち掲載可か否かの最終的査読がおこなわれますが、これについては査読期間を 2 週間に短縮しました。

以上 3 つです。これにより、最短では 3~4 か月もあれば、「掲載可」をもらうことも夢ではありません！（実際、4 か月で掲載を得た方もおられます！）

< 審査要領を修正しました！ >

投稿・査読をよりよく進めていただくために、査読者にお伝えする審査要領の文書に、以下 3 点を付加ないし修正いたしました。投稿者とお二人の査読者との意思疎通がスムーズにおこなわれるよう、編集委員会として、できる努力をしてみたいです。

① 投稿論文および修正コメント等について、威圧的・暴力的・ハラスメント的な表現がないか等について、編集委員会で必ず確認する作業を加えました。査読を通じたコミュニケーションが学問的・生産的に交わされていくための環境を守るよう、委員会として心がけてまいります。

② 査読者 2 人の修正コメントがありますが、その 2 つの間に大きな矛盾や齟齬があり投稿者を困らせるような事態になっていないか、等も、委員会として確認をいたします。このような事例はめったに起こることでもないでしょうし、実際に前例もありませんが、万が一このような場合があれば、編集委員会からご連絡をさせていただく可能性がありますことを、ご了解ください。

③ 査読者には、自分でないもう 1 人の査読者の査読コメントも共有していただくことにしました。修正を経た原稿は、お二人の査読コメントに対応して修正されています。修正原稿をあらためて評価いただく際に、自分以外の査読者のコメントへの修正もご理解いただく必要があるからです。これにより、投稿者とお二人の査読者が互いに論文についての理解を深めながら、掲載を目指していただけたらと思います。

以上です。

さて、言わずもがなかもしれませんが、『スポーツ社会学研究』への投稿は、いつでも通年で受付けています。また掲載が決まった論文については J-Stage にて早期公開を行っております。投稿規定等の詳細は、学会 HP を必ず確認してください。

みなさん、論文をどんどん発表しましょう。
よろしく申し上げます。

編集委員長 中江桂子(明治大学)

5-2. 研究委員会

①学会大会における事業については、本会報の下記をご参照下さい。

2. 第 31 回大会における研究委員会の企画

2-1. 研究委員会企画シンポジウム 2-2. 学生企画シンポジウム

②下記の要領で、2021 年度の研究セミナーを開催いたします。万障お繰り合わせの上、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日本スポーツ社会学会研究委員会
金子史弥 (立命館大学)
浜田幸絵 (島根大学)

日本スポーツ社会学会研究セミナー開催のご案内

謹啓 時下益々ご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて、研究委員会では毎年研究セミナーを開催しております。参加は無料となっております。本学会会員のみならず、日ごろからスポーツや社会学に関心をお持ちの方々の参加もお待ちしております。万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

日 時：2022 年 1 月 31 日 (月) 18 時～19 時 30 分

会 場：Zoom によるオンライン開催

内 容：「東京 2020 大会と<ハーフ>アスリート」

報告者①：ケイン樹里安 (昭和女子大学)

報告者②：河野洋 (福山平成大学)

指定討論者：金子史弥 (立命館大学)

司 会：浜田幸絵 (島根大学)

参加希望の方は、1 月 27 日 (木) までに <https://forms.gle/hLXcygyKdYYLiyJP8> より、お申し込みください。期日までに申し込みをされた方へのみ、Zoom のミーティング ID とパスコードをご連絡いたします。

なお会員に対しては、学会ウェブサイトにて期間限定でオンデマンド配信もいたします。オンデマンド配信の視聴の場合は、申込は必要ありません。

問い合わせ先：s.hamada@soc.shimane-u.ac.jp（島根大学：浜田幸絵）
f-kaneko@fc.ritsumei.ac.jp（立命館大学：金子史弥）

【概要】

東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会では「多様性と調和」というスローガンが掲げられていた。感染症拡大や森組織委員会会長の女性蔑視発言により五輪反対の世論が高まりをみせるなかで、それを封印するかのように一層前面に押し出されていったのが、このスローガンであった。開会式でも「多様性」を強調する演出が多くみられ、日本選手団旗手には八村塁選手、開会式の聖火最終ランナーには大坂なおみ選手がそれぞれ起用された。いわゆる〈ハーフ〉選手の式典における重点的起用は、日本社会が〈単一民族国家〉の神話を手放したことを国際社会にアピールした瞬間であったと評価することもできよう。

しかし、華やかな式典や競技の外にも目を向ければ、今回の大会は、日本が「多様性と調和」を尊重する社会からはほど遠いという現実—旧来の〈日本人〉の境界を維持したいという欲望や人種的ステレオタイプの存在—をかえって浮かび上がらせたようにも思える。本研究セミナーでは、東京大会において〈日本人〉がどのように定義されようとし、〈ハーフ〉アスリートに対してどのような視線が向けられていたのか、を主題としたい。その際、アスリートへの誹謗中傷も盛んに飛び交ったインターネットという情報空間の特徴や、「多民族国家」イギリスを前面に押し出して開催された 2012 年ロンドン大会との比較についても議論できればと考えている。

【報告要旨】

報告者①：ケイン 樹里安（昭和女子大学）

報告タイトル：ちぎりとられたダイバーシティとメガ・スポーツ・イベント
——「ハーフ」アスリートの人種化と抑圧の批判的言説分析

本報告では、東京 2020 大会での活躍が期待された「ハーフ」アスリートをめぐって、どのような言説が現れていたのかについて、問題提起を行う。ダイバーシティ&インクルージョンが「多様性と調和」として伝えられ、そのなかでどのようなダイバーシティが選別され、称揚され、はたまた周縁化されてきたのか。グローバルなメガ・スポーツ・イベントであるオリンピックやさまざまな国際大会で「ハーフ」アスリートが活躍するたびに出現する言説を整理することで、「スポーツをする」ことがどのような力学のなかにあるのかについて、論点を提示したい。

特に、「ハーフ」アスリートの活躍にまつわるさまざまな「評価」のありかた、東京 2020 大会が近づくとつれ、顕著に見受けられた「克服の物語」の出現といった出来事を、新聞記事を中心的な対象としつつ検証する。

報告者②：河野 洋（福山平成大学）

報告タイトル：インターネットコメントから考える、ハーフ選手と「日本人」

本報告では、日本のハーフ選手に向けられる「インターネットコメント」の情報提供を行う。インターネットを「多様性と調和」の点から論じるのは容易ではないが、実際に投稿されたコメントデータとそれに基づく知見を共有しながら、スポーツの立場からインターネットの在り方を考える機会としたい。

内容としては、はじめに報告者のこれまでの調査事例（2014年サッカーW杯／2015年ラグビーW杯／2016年オリンピックリオ大会／2020年テニス全米オープン）から、スポーツを取り巻く「インターネット上の人種問題」について整理する。続いて、2021年オリンピック東京大会で投稿されたハーフ選手へのコメントを、試合結果や選手の動向などを踏まえながら検証する。

※2022年1月17日追記

報告者のお一人であったケイン樹里安先生ですが、急なご都合により、登壇できなくなりました。ご了承いただければ幸いです。なお、研究セミナーにつきましては、登壇者の発表時間を調整して、予定の日時で開催いたします。

③その他、下記の事業を実施しました。

- ・2021年度第1回学生フォーラム 2021年7月17日（土）
報告者3名、参加者20名
- ・2021年度第2回学生フォーラム 2021年12月5日（日）
報告者5名、参加者17名

研究委員長 金子史弥（立命館大学）

5-3. 国際交流委員会

学会員が科研費や大学の経費等で海外研究者を招聘しようとするさいに、日本スポーツ社会学会がより積極的に協力できるような制度づくりを検討しています。なお、昨今の学会大会ではシンポジウム・講演等の企画をすべて日程内に収めるのが困難になっているため、第31回大会では国際交流企画シンポジウムは開催しません。

国際交流委員長 倉島哲（関西学院大学）

5-4. 電子ジャーナル委員会

2020年9月30日に発行された第28巻2号の特集論文が、発行から1年経過しましたので、J-Stage上にアップロードされました。特集のタイトルは、「スポーツ社会学を実践学化する」です。特集のねらいと以下の3つの論文が、それぞれ公開されています。

- ・岡田光弘，「特集のねらい」（<https://doi.org/10.5987/jjsss.28-02-03>）
- ・海老田大五朗・杉本隆久，「不可知とされがちな領域への接近—スポーツの記述とその理解及び共有について—」（<https://doi.org/10.5987/jjsss.28-02-04>）
- ・渡正，「スポーツコーチングの社会学的研究の可能性」（<https://doi.org/10.5987/jjsss.28-02-05>）
- ・樫田美雄，「スポーツ社会学が実践の学になるための2つの方法—設計主義的思い込みから自由になること、及び、シークエンスあるいはシステムへの注目—」（<https://doi.org/10.5987/jjsss.28-02-06>）

2021年3月発行の29巻1号に掲載されております下窪拓也氏および笠原亜希子氏の論文および、同年9月発行の29巻2号に掲載されております釜崎太氏の論文につきましてもそれぞれ早期公開がなされた後、以下の通り本公開されております。

- ・下窪拓也, 「オリンピック競技大会招致開催の経験がナショナルプライドに与える長期的影響—社会調査データの二次分析による世代効果の検証を通じた一考察—」
(<https://doi.org/10.5987/jjsss.29.1.1>)
- ・笠原亜希子, 「知的障害者のスポーツをめぐる『身体経験』の論理」
(<https://doi.org/10.5987/jjsss.29.1.2>)
- ・釜崎太「ドイツの市民社会とブンデスリーガー共的セクターとしての非営利法人の機能—」 (<https://doi.org/10.5987/jjsss.29.2.1>)

2022年3月に発行される30巻第1号に掲載予定の論文につきましても、紙媒体刊行の2ヶ月前までに受理された論文がありましたら、J-Stageで早期公開させていただきます。

電子ジャーナル委員長 奥田睦子 (京都産業大学)

5-5. 広報委員会

広報委員会は、公式ホームページやメーリングリストによる情報提供と、会報の編集・発行を主な業務としております。会員の皆様には、会員に広く告知してほしい研究セミナーや交流研究会などございましたら、積極的に情報提供いただければ幸いです。
jsss.kouhou@gmail.comにて、随時受け付けています。お気軽にお寄せください。

広報委員長 水野英莉 (流通科学大学)

5-6. 学生研究奨励賞選考委員会

本委員会では、優秀な学生の研究に対して、論文部門、発表部門に分けて表彰を行っています。論文部門については、現在(2022年1月)、審査を行っており、発表部門については、日本スポーツ社会学会第31回大会(2022年3月19-20日)での一般発表が対象となります。

学生会員の皆さまにおかれましては、この制度を論文投稿および口頭発表を行う契機とし、ご自身の研究の発展に繋げていただくことを願っております。

学生研究奨励賞選考委員長 岡田千あき (大阪大学)

5-7. 学会賞選考委員会

第5回理事会(2021年12月12日)において、これまで議論してきました日本スポーツ社会学会における「学会賞規程(案)」「学会賞選考委員会細則(案)」そして「学会賞(論文部門)選考内規(案)」及び「学会賞(著書部門)選考内規(案)」について、審議・了承されました。本年3月の学会総会で審議・了承されれば、論文部門(2020年10月1日~2022年9月30日に出版された原著論文)及び著書部門(2019年10月1日~2022年9月30日に出版された著書)について、10月より審査に入り、2023年3月の学会時に発表することを予定しています。今後、選考対象となる論文あるいは著書の推薦(自薦・他薦)を受け付けることとなります。よろしくお願いたします。

学会賞選考委員長 清水諭 (筑波大学)

6. 事務局より 2021年度理事会議事録（第4回）

2021年度 日本スポーツ社会学会 第4回理事会 議事録

期 日：2021年9月10日（金）16：00～18：30

場 所：オンライン開催（Zoom）

出席者：石坂、岡田、奥田、金子、菊、倉島、笹生、清水、高峰、中江、松尾、水上、渡
（以上、理事）、河原、杉本（以上、監事）、高尾（学会大会開催校）

欠席者：水野、山口（以上、理事） 以上、敬称略

議長：松尾理事長

議事録：浜田（事務局次長）

議事に先立ち、松尾理事長より定足数を満たしている確認がなされ、開会宣言が行われた。続いて菊会長より挨拶がなされた。

<報告事項>

1. 各委員会の活動進捗状況（各委員会）【資料1】

各委員会の2021年の活動の進捗状況について報告が行われた。

(1) 編集委員会（中江委員長）

2021年のこれまでの学会誌編集作業に関して、委員会の開催状況、投稿論文審査要領の改訂などに関する議論（審議事項の6）が行われたこと、学会誌第29巻第2号が予定どおり刊行される見込みであること、今後の定例委員会の開催予定が報告された。

(2) 研究委員会（金子委員長）

2021年の活動の進捗について、以下の報告がなされた。

・第1回学生フォーラムは前年と同様に地区の東西を分けずオンライン開催とし、盛会のうちに終了した。第2回は12月に予定している。また学生フォーラム発表者の資格に関する以下の内規を作成した。

1) 会員であること（発表申し込み時点で会員でない場合は、必ず入会手続きをとること）

2) 原則、学生会員による発表を優先する。

3) 発表締め切り時点で発表数が少なかった場合は、正会員による発表も適宜認める。

→募集時点で1回あたりの発表演題数を設定する（4題程度）

・第31回学会大会の研究委員会シンポジウムは、東京2020大会（オリンピック・パラリンピック）をテーマとする。内容は現在検討中である。

(3) 国際交流委員会（倉島委員長）

韓国スポーツ社会学会との交流協定が実効性を失っている現状を踏まえて、諸外国のスポーツ社会学会との幅広い交流や、より拘束的ではない関係性の構築を目指していくことが報告された。また第31回学会大会では国際交流委員会の企画は行われないため、他の企画に協力する形で活動していく。

(4) 広報委員会（水野委員長の代理で高峰理事）

会報77号を8月に配信し、78号は12月に配信予定であること、引き続きホームページ上での学会関連イベントの広報を行っていくことが報告された。また学会ホームページの改訂を検討している（審議事項の9）。

(5) 電子ジャーナル委員会（奥田委員長）

学会誌第29巻第2号掲載の投稿論文をJ-STAGEにて早期公開した。今後は第29巻第2号の投稿論文および28巻第2号の特集論文の電子ジャーナル化を行う予定。

(6) 学生研究奨励賞選考委員会（岡田委員長）

学会誌第 29 巻 1 号・第 2 号および第 31 回学会大会を対象として、今年度の学生研究奨励賞論文部門・発表部門の選考を行っていくことが報告された。

(7) 学会賞選考委員会（清水委員長）

日本スポーツ社会学会の学会賞規程、委員会細則、選考内規の原案を作成したことが報告された。今後はこれら原案についての議論を経て（審議事項の 7）、次年度に向けた準備を行う。

(8) 事務局（石坂事務局長）

特になし。

< 審議事項 >

1. 第 31 回大会（東海大学）の開催について（大会開催校・高尾将幸会員）【資料 2】

2021 年度の第 31 回学会大会について、開催校である東海大学の高尾会員より準備状況などの説明がなされた。主な内容は以下のとおりである。

- ・現在は対面での開催を前提に準備を進めている。大会開催に伴う感染予防対策を策定し、懇親会は行わない。
- ・実行委員会企画はパラリンピックをテーマとした公開企画とし、パラリンピックに関わった開催校関係者に登壇依頼する予定。
- ・大会案内・抄録集は郵送せず、PDF 化してオンラインで配信する。
- ・開催形態（対面または遠隔）の最終的な判断は、11 月下旬に行う予定である。また形態変更による返金が生じないように、参加費は対面でも遠隔でも同額とする。

続いて、以下の質問と回答がなされた。

大会当日のセッションの配置について、参加者の会場内での移動や登壇者の都合などに応じて、最終決定を行う。開催形態を 11 月下旬に判断するのは早すぎるのではないかとの意見があり、発表者の利便性を念頭に、年明けごろまで判断時期を延長する可能性を含めて再検討する。各委員会企画の登壇者も対面での参加が必須なのかとの質問があり、遠隔での参加が可能なのか、ネットワークや音響といった会場の環境を確認する。対面と遠隔の二重の準備を行うことの必要性や難しさについてコメントがあり、もし開催形式が対面から遠隔に変更になった場合に実行委員会と参加者（発表者）がともにスムーズな切り替えができるよう準備していく。

また石坂事務局長より、第 30 回学会大会のオンライン環境を第 31 回学会大会に引き継ぐ可能性について補足説明があり、動画を使用する場合、Vimeo と Dropbox は新たに契約する必要があるが（2 万円程度）、ホームページは費用がかからないことが説明された。

そのほかに質問などはなく、開催案は資料のとおり承認された。本審議事項は高尾会員がオブザーバー参加のため、報告事項に先立って審議された。

2. 2021 年活動計画および 2021 年中間決算報告について（各委員会、事務局）

【資料 1、3】

上記の事項について報告があり、すべて異議などなく承認された。なお活動計画については報告事項の 1 と併せて審議された。

石坂事務局長より、中間決算についての報告がなされた。また監査が終了していないため暫定ながら、第 30 回学会大会の決算が 34 万 9,351 円の黒字見込みであることが報告された。次に、今年度より導入した電子システムによる年度会費のクレジット払いの利用率について報告があり、6 割程度の高い利用率になっていること、またほぼ全会員のメールアドレスを把握できたことで、会費請求のリマインドをメールで行えるようになったことから、順調な年度会費収入を見込めることが説明された。

3. 2022 年活動計画および 2022 年予算案について（各委員会、事務局）【資料 3、4】

上記の事項について報告が行われ、すべて異議などなく承認された。

(1) 編集委員会（中江委員長）

基本的には 2021 年と変わらず、良い学会誌づくりと査読を目指して活動していく、またそのための活動として、毎月第 1 土曜日に定例の委員会を行なっていくことが報告された。

(2) 研究委員会（金子委員長）

2021 年と同じく、学生フォーラムの開催支援、研究セミナーの開催、学会大会研究委員会シンポジウムの企画を行っていくことが報告された。

(3) 国際交流委員会（倉島委員長）

会員が科研費や大学の経費などで海外研究者を招聘する際に学会として積極的に協力できる制度づくり、第 32 回学会大会における委員会企画について検討していくことが報告された。

(4) 広報委員会（水野委員長の代理で高峰理事）

活動計画については特に例年と変わりなく、会報 79・80 号の配信やホームページでの各種企画の告知を行っていく旨が報告された。またホームページの改訂（審議事項の 9）について審議、承認されれば、その内容に沿って改訂作業を進めていくことが説明された。

(5) 電子ジャーナル委員会（奥田委員長）

学会誌第 30 巻第 1 号・第 2 号の投稿論文、第 29 巻第 1 号・第 2 号の特集論文の電子ジャーナル化を行っていくことが報告された。また論文が早期公開されたことを会員に周知するため、今後は広報委員会と連携していく予定が示された。

(6) 学生研究奨励賞選考委員会（岡田委員長）

これまでと同様の進め方で、学生研究奨励賞の選考や 2023 年の活動スケジュール作成を行っていくことが説明された。

(7) 学会賞選考委員会（清水委員長）

学会賞規程等の原案の承認後（審議事項の 7）、学会賞選考委員会委員の推薦および理事会での承認を経て、対象論文・著書の受付および選考を進めていくことが報告された。

(8) 事務局（石坂事務局長）

資料にもとづいて、2022 年予算について説明がなされた。予算編成に関わることから、ホームページ改訂案（審議事項の 9）を先に審議し、承認が得られたことから、20 万円の広報委員会予算を追加した修正版の予算案が提示され、審議を行った。会費収入は例年通りを見込み、新設される学会賞の予算として 10 万 7,000 円（審査用書籍代の購入費、隔年）などを盛り込んだ結果、15 万 9,200 円の赤字見込みが示された。ここ数年余剰金が積み増されていることから十分に余力があることが説明され、審議の結果 2022 年予算案が承認された。

4. 『スポーツ社会学事典』の刊行について【資料 5】

松尾理事長より、日本スポーツ社会学会創設 30 周年記念事業の一環として、『スポーツ社会学事典』の出版が提案された。出版社は事典の出版・販売実績がある丸善出版株式会社に依頼し、菊会長を編集委員長とする「スポーツ社会学事典編集委員会」を設置し、2024 年度の刊行を目指すこと、また本事業のメリットとして学会の存在を広くアピールできること、多くの執筆者が関わることによる学会活動の活性化などが説明された。理事会承認の後に総会決議を経ることとし、学会記念事業という性格から、顧問の先生方を編集顧問、新旧理事長、事務局長を編集幹事として準備を進めていく体制案が示された。

編集委員会について、今後理事会が改選された際に編集委員長、編集幹事は変更する可能性があるのかとの質問が出され、基本的に変更は考えていないこと、この後編集委員の人選を進めて理事会で承認を受けることなどが理事長より説明された。そのほか特に異議などなく、この提案は承認された。

5. 会則、役員選出細則の改定について【資料 6】

石坂事務局長より、学会賞選考委員会の新設に伴う会則の改訂および顧問の選出に関する役員選出細則の改訂（顧問の任期がなくなったため、役員改選期から毎年選出できる内容に変更）が提案され、異議などなく承認された。

6. 投稿論文審査要領、およびスポーツ社会学研究編集手順覚書の改正について

【資料 7-1・2・3】

中江編集委員長より、教育的・建設的な査読の実現や投稿者の利便性向上を主たる目的として、『スポーツ社会学研究』の投稿論文審査要領の改訂案、これまで定められていなかった研究ノートの審査要領案が示された。あわせて、編集委員会と編集事務局とのあいだの投稿査読手続きマニュアル案についても示され、資料をもとに説明がなされた。

2名の査読者の意見が割れた際の第3査読者の選出方法について確認があり、編集委員以外から3人目の査読者を推薦する現行の仕組みから変更はないとの説明がなされた。また審査の過程で原著論文から研究ノートへの移行が、編集委員会から示唆できるように読める文言についての質問があり、原則としてジャンル変更が必要な場合は新規投稿を進めるこれまでの方法に変更はないこと、掲載不可が決まった段階で必要に応じて提案することがあるという基本方針が説明された。そのほか研究ノートの審査における「科学的妥当性を評価する」という文言が以下に続く文章とニュアンスが合わないのではないかという指摘があり、表現については再度委員会で検討することが説明された。

議論の結果、投稿論文審査要領、およびスポーツ社会学研究編集手順覚書の改正について承認され、微細な表現等については、編集委員会に一任することが承認された。

7. スポーツ社会学会賞について【資料 8】

清水学会賞選考委員長より、学会賞規程、学会賞選考委員会細則、学会賞選考内規（論文部門・著書部門）の各案について、資料をもとに説明がなされた。学会賞制度の開始を2022年からとするか2023年からとするかについて、日本体育・スポーツ・健康学会の体育社会学専門領域の同賞選考が2022年度から始まることが示されたが、選考を早く開始するという趣旨から、重複することになるものの、2022年から選考を行うことが承認された。

審査を隔年で行うことに関して、著書部門は過去3カ年の作品を対象とするため選考にかかる機会が少なくなるのではないかとこの質問に対し、特にその点は問題にならない旨の回答がなされた。また一度選考対象になって落選した論文・著書は次回以降の選考対象から外れることについて、対象外になった事実を公開するのかという質問がなされ、公開しない方針であることが説明された。

そのほか会費未納や除籍対象に含まれる会員が受賞する場合が想定されることについて質問があり、受賞資格に関する文言を追加するか委員会で検討することが示された。また資料で示された審査対象となる「媒体の例」はあくまでも例であり、記載されている媒体以外にも審査対象に含まれることが説明された。

学生研究奨励賞との重複受賞についても質問があり、学会賞との重複受賞が認められることが確認された。さらに学生が選考委員会に入れることになっている案に関して質問があり、水上理事から研究キャリアなどがある社会人院生を想定していることが補足説明された。意見交換の結果、学生会員の委員会参加は行わないこととされた。次回理事会に向けて修正作業を行い、総会での決議を目指す方針が示され、承認された。

8. 韓国スポーツ社会学会との交流協定について【資料 9】

倉島国際交流委員長より、韓国スポーツ社会学会との交流協定に関する経緯説明と、それを踏まえた今後の方針について、下記のような説明がなされた。

- ・2006年に締結した韓国との交流協定は事実上失効しており、今後協定の更新は行わないことにするが、友好関係の構築には努めていく。
- ・韓国に限定せず、諸外国のスポーツ社会学関連学会と幅広い関係を構築することを目

指す。またそこでの関係性はより拘束的ではない形を原則とする。

菊会長より、これまで協定を元に両国の交流が進められてきたことを今一度韓国側と共有し、その関係性を大事にしながらも、新たな発展的関係を構築していく方針を委員会より連絡して進めてはどうかとの提案がなされた。韓国側と委員会から連絡をとることとし、今後の国際交流の進め方についての提案は承認された。

9. 学会 HP の改訂について（広報委員会）【資料 10】

広報委員会の高峰理事より、学会ホームページの改訂について提案がなされた。現在は HTML 形式のホームページを利用して、更新は学会外部の先生に管理料を支払って依頼する形をとっているが、手続きがやや煩雑で、遠慮しがちになること、構造的に改変が容易ではなく、やや見づらい様式であることが説明された。現在学会大会で使用している WordPress を使用したホームページが使い勝手が良く、更新も楽なことから、この形式での改訂が提案された。

前期の理事会で相見積もりを取った経緯を踏まえ（HTML 形式と WordPress 形式を比較した）、学会大会のホームページを作成してもらっている心力舎から見積もりを再取得し、検討がなされた。オプション経費として記載されている過去年度の会報、学会大会抄録集のアーカイブ化について、広報委員会で作業を進めていることが笹生理事より追加説明された。また、審議事項 3. 2022 年予算案と関連して、事務局長から予算的には支障ないこと、アーカイブを組み込む際に、学生アルバイトなどを利用すれば追加経費は安く済むことが補足説明された。審議の結果、WordPress を使用したホームページに改訂すること、予備費を含めた 20 万円の追加予算計上が承認された（審議事項の 3）。

また新しいホームページの更新は基本的に広報委員会で行うこと、従って外部の先生に来年度は管理の依頼を行わないこと、学会ロゴの制作者（管理者）に著作権の状況などを確かめることなどが確認された。

10. 入・退会者について【資料 11】

石坂事務局長より、新規入会者 6 名（事務局推薦 2 名を含む）、退会予定者 2 名について説明がなされた。事務局推薦者は三役で事前承認し、提出された業績書が回覧された。いずれも異議などなく承認された。

11. その他

石坂事務局長より、第 32 回学会大会開催校の公募を行うことが説明され、承認された。

最後に河原監事、杉本監事、菊会長から挨拶がなされた。松尾理事長から閉会宣言がなされ、本会は閉会した。

以上

事務局長 石坂友司（奈良女子大学）
事務局次長 浜田雄介（京都産業大学）

7. 編集後記

本号では主に、東海大学湘南キャンパスを会場校として 2022 年 3 月に開催される日本スポーツ社会学会第 31 回についての情報を掲載しております。コロナ禍が続いておりますので、開催の形式が対面となるかオンラインとなるかは状況次第ですが、過年度の経験を活かし、遜色のない内容になることが期待できます。研究委員会企画、学生企画、実行

委員会企画等、大変タイムリーで充実した内容を予定しておりますので、みなさまどうぞ
ふるってご参加のほどお願い申し上げます。

広報委員会 水野英莉